

Arcserve®
Unified Data Protection v6.5
Agent for Windows
環境構築ガイド
インストール～ベアメタル復旧編

Rev1.2

2018 年 11 月

arcserve®

目次

はじめに	1
1. インストール.....	2
1.1 インストール	2
1.2 ライセンスキーの登録.....	8
1.3 修正ファイルの適用	9
2. バックアップ運用の開始	10
2.1 バックアップ設定	10
3. バックアップ スケジュールの設定.....	14
3.1 バックアップ スケジュールの設定例	14
4. ベアメタル復旧	16
4.1 復旧メディアの作成	17
4.2 ベアメタル復旧の実行	26
5. 製品情報と無償トレーニング情報.....	36
5.1 製品情報および FAQ はこちら.....	36
5.2 トレーニング情報	36

<更新履歴>

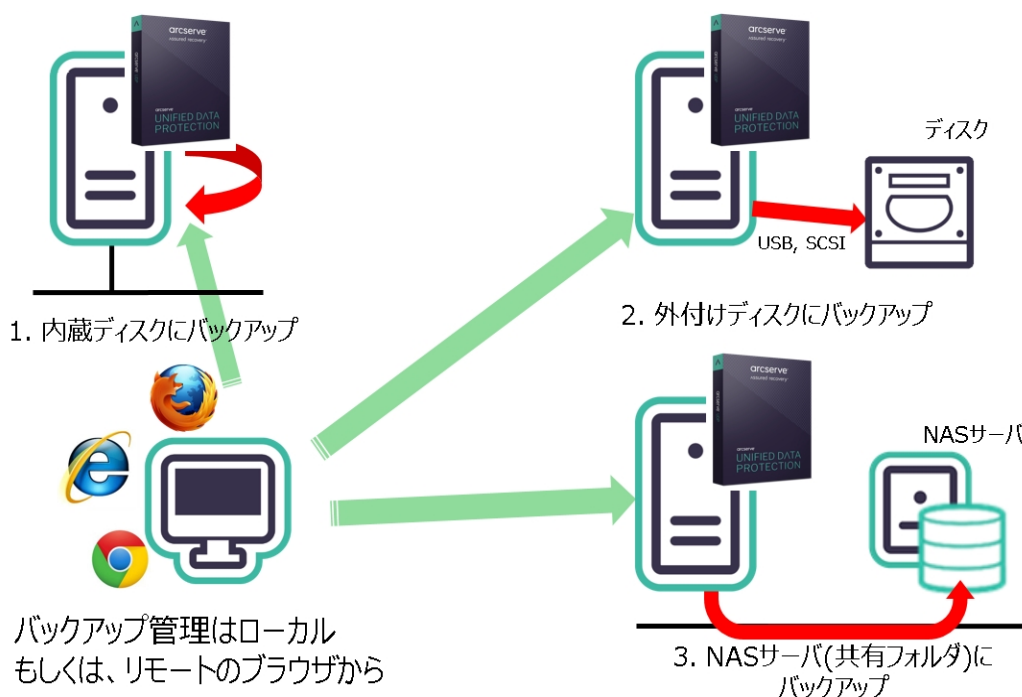
2017/09	初版リリース (Rev1.0)
2018/04	更新版リリース (Rev1.1)
2018/11	更新版リリース (Rev1.2)

注意：この資料は 2018 年 11 月 1 日現在の製品をもとに記述しています。すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。本ガイドは情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対し一切の責任を負いません。Arcserve は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証（商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます（ただし、これに限定されません））も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など（ただし、これに限定されません）、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserve がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

はじめに

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) Agent は、小中規模なコンピューティング環境のデータ保護ニーズに焦点を合わせた非常に「簡単」かつ「手頃」なディスクベースのシステム保護ソリューションです。

導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めるとほとんど専門知識や手間をかける必要がないため、バックアップ運用管理者の手薄な地方拠点や小規模な部門でも安心してお使いいただくことができます。本ガイドでは、サーバ管理やバックアップ運用経験の少ない方でも、簡単に UDP Agent の環境構築を行っていたけるよう、ステップバイステップでインストールからベアメタル復旧までの手順を説明しています。



UDP Agent は保護対象のマシンに直接インストールする製品です。バックアップ先のディスクには内蔵・外付けのディスクの他、NAS などリモートの共有フォルダを使用できます。共有フォルダを使用する構成では、保護対象サーバからみて Windows の共有フォルダとしてアクセスできるのであれば、デバイスの形式は問いません。

内蔵ディスクが 1 本しかない構成や、サーバ内にバックアップのための容量を確保できない構成では、NAS などのリモートの共有フォルダをバックアップ先に使用する運用が効果的です。管理 GUI は WEB 形式なので、ブラウザが使用できる環境ならば、保護したいサーバにアクセスするだけでバックアップ状況を確認することができます。

台数が多い環境では「UDP 管理コンソール」からすべてのサーバを一元管理する運用もできます。バックアップ対象ノードに UDP Agent をリモートでインストールしたり、バックアップの設定（プラン）を一斉に配信することもできます。

UDP 管理コンソール利用時は、バックアップ先として「復旧ポイントサーバ」も利用できます。これにより、バックアップデータの重複排除や、遠隔地への転送機能が提供されます。また、負荷のかかるマージやカタログ作成処理を UDP Agent に代わって復旧ポイントサーバ側で実行することができるため、保護対象サーバやネットワークへの負荷を低減できます。

UDP 管理コンソールや復旧ポイントサーバの導入については、下記の環境構築ガイドをご参照ください。

https://arcserve.com/jp/wp-content/uploads/2018/11/udp_v65_console_install_guide.pdf

1. インストール

説明手順は、ご使用の環境により一部手順が異なる場合がありますのでご注意ください。

インストールの必要なディスク要件は、環境により異なりますので下記動作要件をご参照下さい。

動作要件の参照先：<https://support.arcserve.com/s/article/212366726?language=ja>

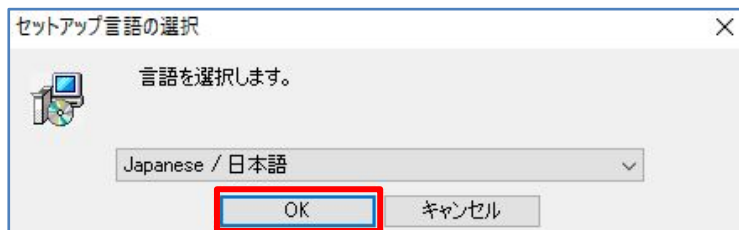
1.1 インストール

(1) [インストールの開始]

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) の Agent をインストールするコンピュータに、Administrator または Administrators グループのユーザでログオンします。「Arcserve Unified Data Protection」 インストール メディアをセットし、ドライブのルートフォルダからセットアップ ファイル [setup.exe] を実行します。セットアップ ウィザードが開始されます。

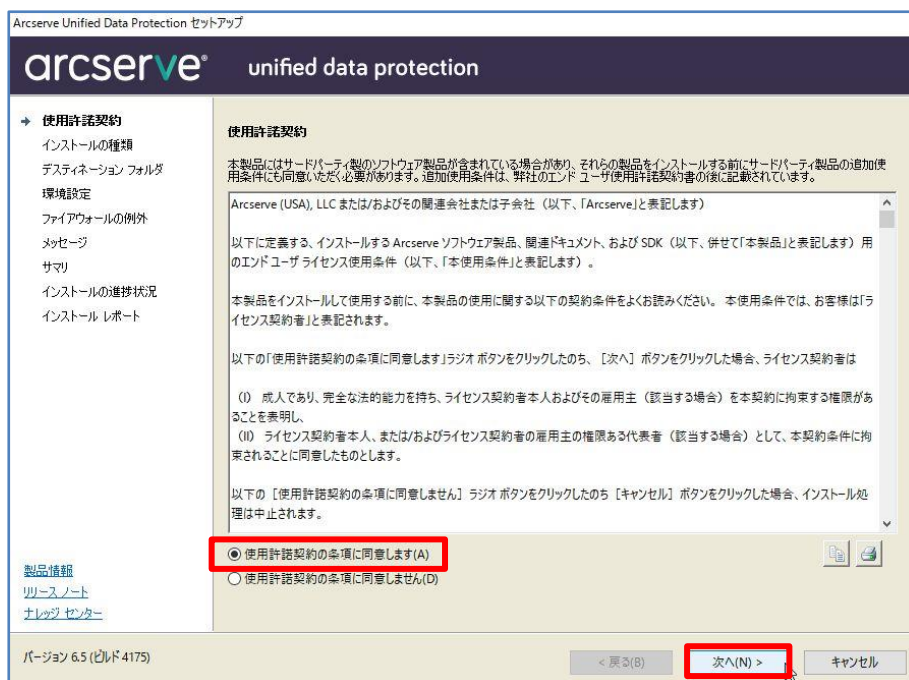
(2) [セットアップ言語の選択]

[Japanese / 日本語] を確認し、[OK] をクリックします。



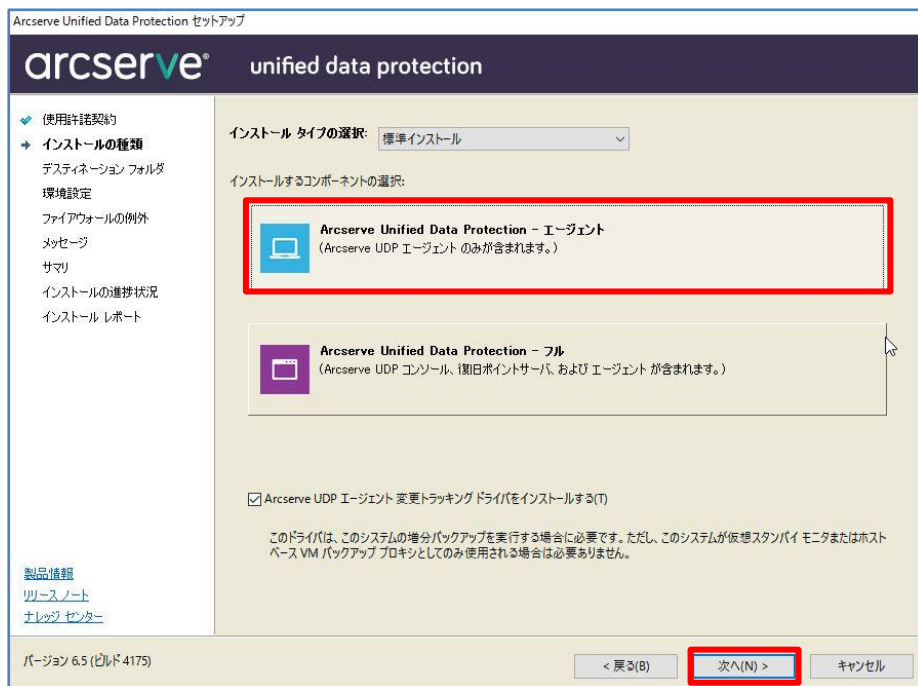
(3) [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後まで読み、同意する場合は [使用許諾契約の条項に同意します] を選択し [次へ] をクリックします。



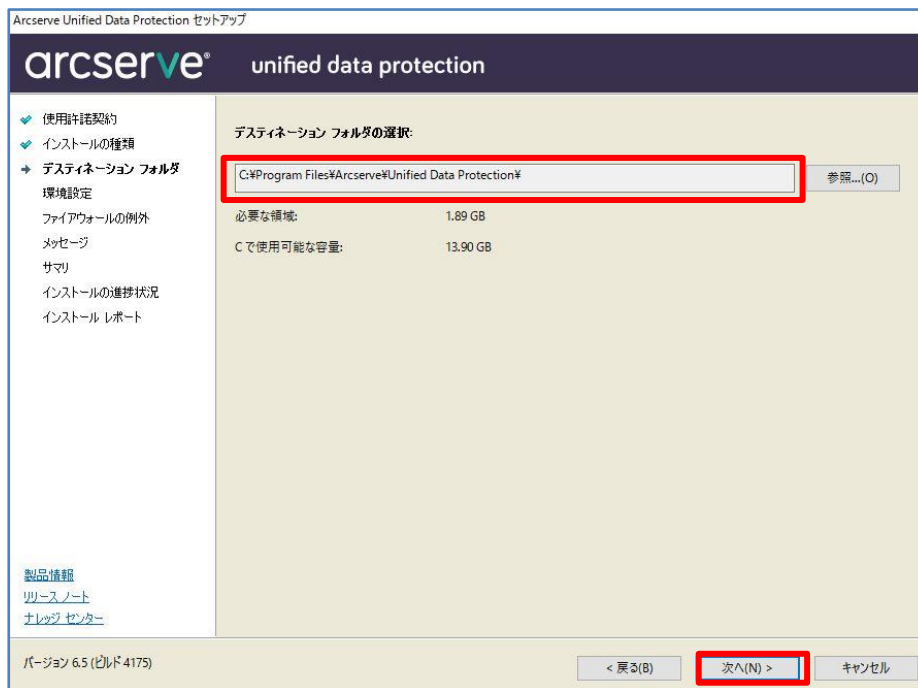
(4) [インストールタイプの選択]

[インストールするコンポーネントの選択] で、[Arcserve Unified Data Protection – エージェント] が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



(5) [デスティネーション フォルダの選択]

インストール先フォルダを確認し、[次へ] をクリックします。



(6) [環境設定]

使用するプロトコルを「HTTPS」または「HTTP」から選択します。ここでは、HTTPを選択します。

また、Windows ファイアウォールに登録するポート番号を確認します。

デフォルトで設定されるポート番号は「8014」です。ここで登録したポート番号を使用して、UDP Agent の操作をリモートのブラウザからも行うことができます。バックアップに使用する Windows 管理者の名前 [ユーザ名] を確認し、[パスワード] を入力し、[次へ] をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ

arcserve® unified data protection

使用許諾契約

インストールの種類

デスティネーション フォルダ

→ 環境設定

ファイアウォールの例外

メッセージ

サマリ

インストールの進捗状況

インストール レポート

環境設定

プロトコル:

注: より安全な通信のためには、HTTPS の通信

エージェントポート:

管理者権限のあるアカウントを指定する

ユーザ名:

パスワード:

Arcserve UDP エージェント モニタの表示:

☒ すべてのユーザ

☐ 現在のユーザのみ

バージョン 6.5 (ビルド 4175)

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル

(7) [ファイアウォールの例外]

利用するプログラムを Windows ファイアウォールの例外として登録します。

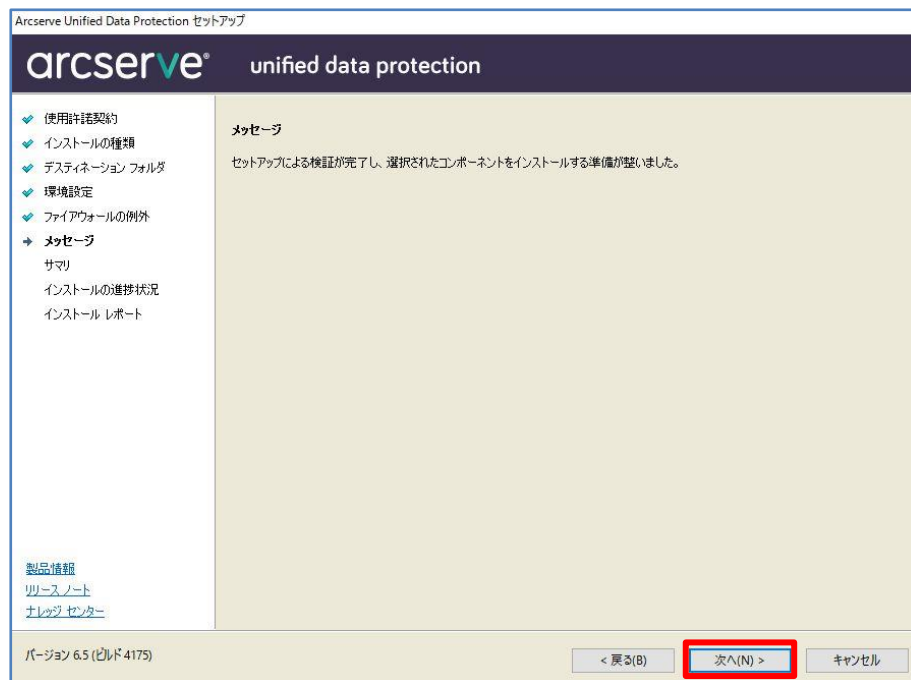
内容を確認し、[次へ] をクリックします。

[illegible]

(8) [メッセージ]

セットアップの検証が完了し、インストールの準備が整いました。

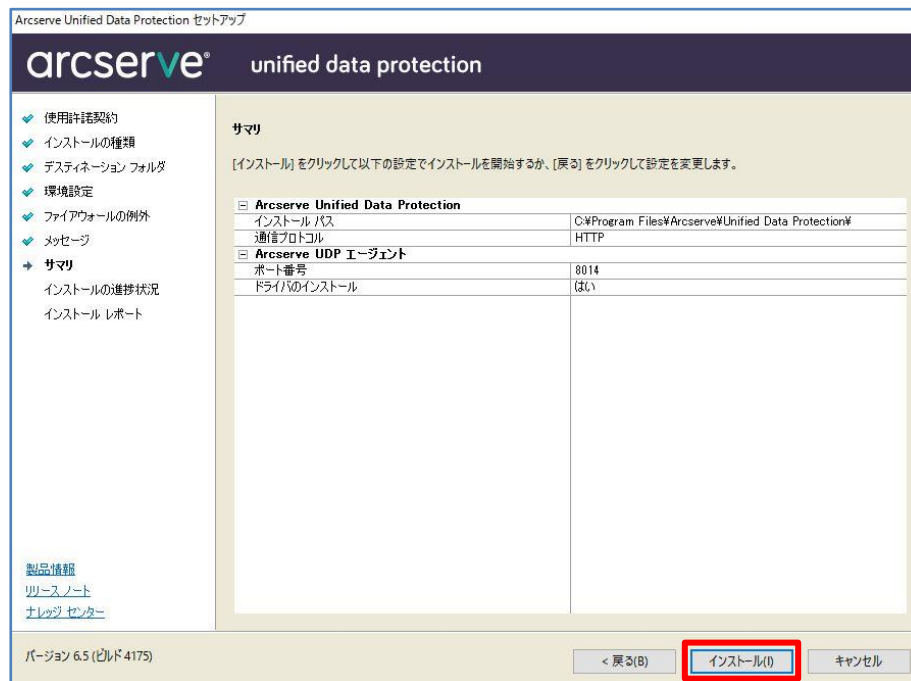
[次へ] をクリックして進めます。



(9) [サマリ]

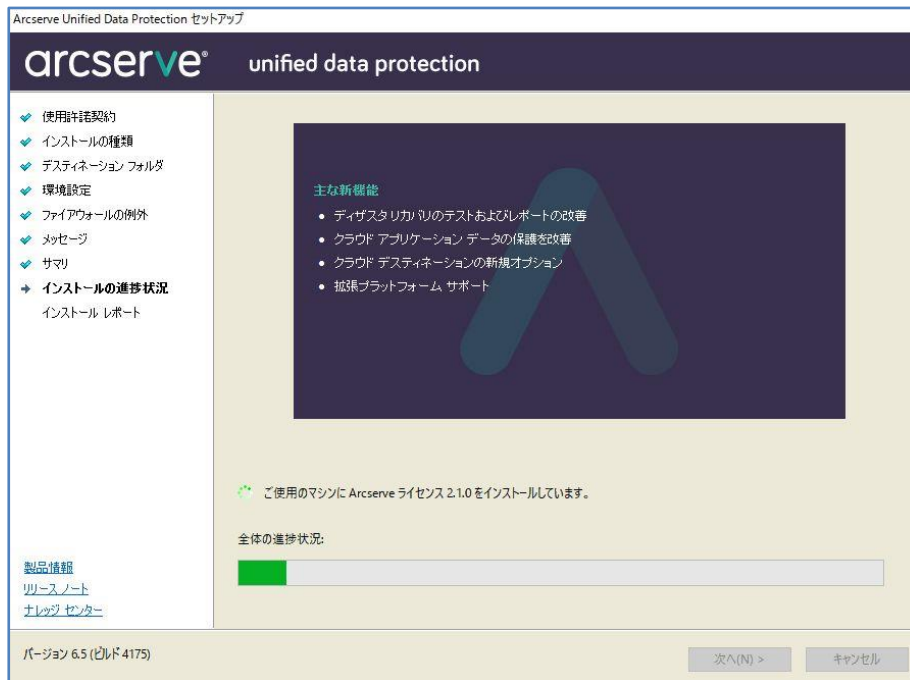
サマリ内の設定項目が正しければ [インストール] をクリックし、インストールを開始します。

もし相違があれば [戻る] をクリックして前に戻り、再設定します。



(10) [インストールの進捗状況]

インストール全体の進捗状況を確認します。

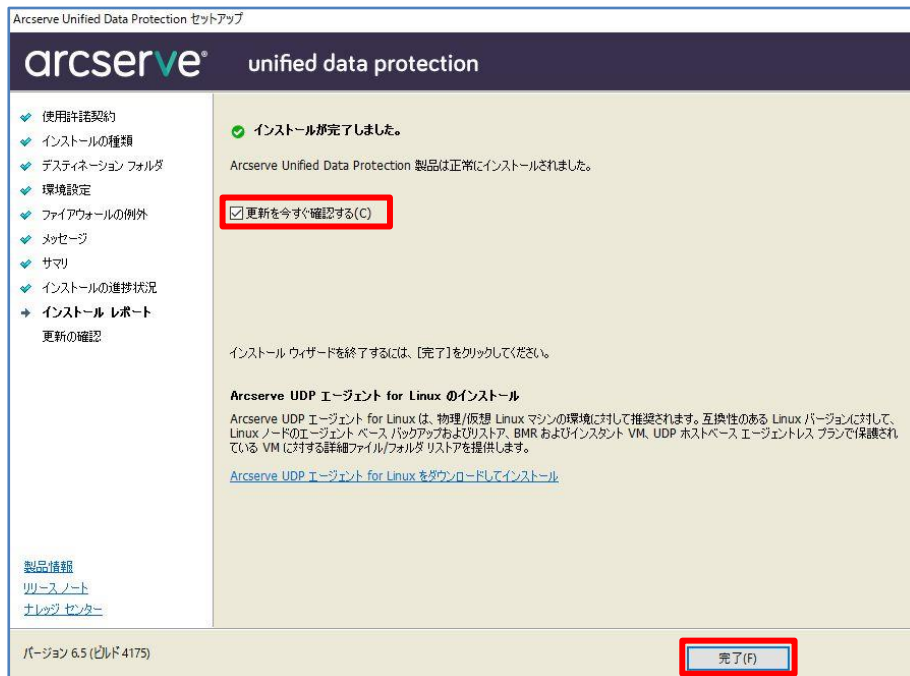


(11) [インストール レポート]

「インストールが完了しました」のメッセージを確認し、[完了] をクリックします。

デフォルトでは、[更新を今すぐ確認する] にチェックが入っています。

[更新を今すぐ確認する] チェック ボックスを選択すると製品の更新を確認することができ、最新の状態にすることができます。



(12) [更新の確認]

[更新の確認]画面からダウンロード経路を選択して、[更新]をクリックしてダウンロードが開始されます。
当画面は直接ダウンロードをした場合になります。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ

arcserve unified data protection

更新の確認

利用可能なすべての更新がダウンロードおよびインストールされます。この更新をダウンロードするソースを選択し、[更新] をクリックします。

☒ Arcserve サーバから更新をダウンロード

☐ プロキシサーバを使用

プロキシサーバ:

ポート:

☐ プロキシサーバには認証が必要

ユーザ名:

パスワード:

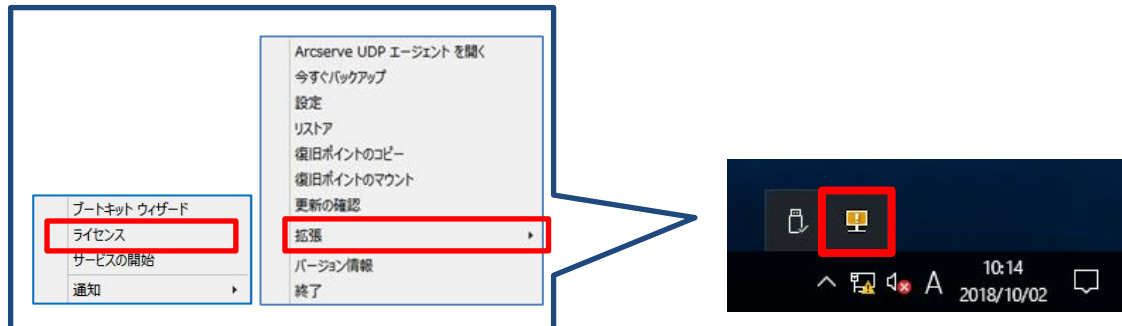
☐ ステージングサーバから更新をダウンロード

更新 キャンセル

1.2 ライセンス キーの登録

(1) [ライセンス登録画面の起動]

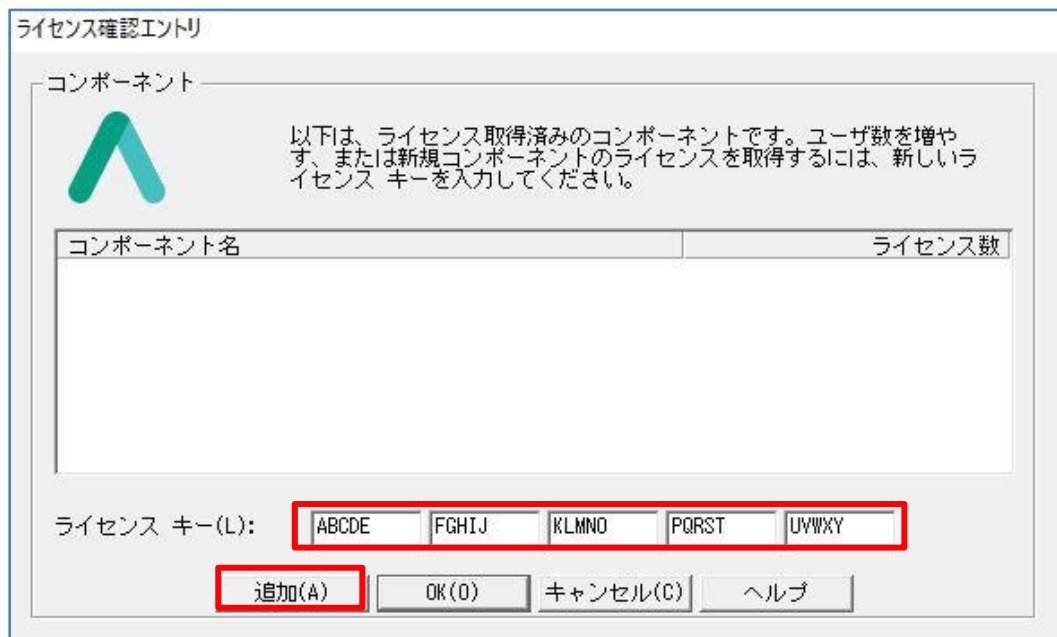
インストール完了後、管理者権限のあるユーザ（ここでは Administrator）でログインし、タスクトレイ上の UDP Agent アイコンをクリックします。[拡張] メニューを展開し、[ライセンス] を選択します。



(2) [ライセンスの確認エントリ]

25 桁のライセンス キーを登録します。コピー アンド ペーストによる入力も可能です。

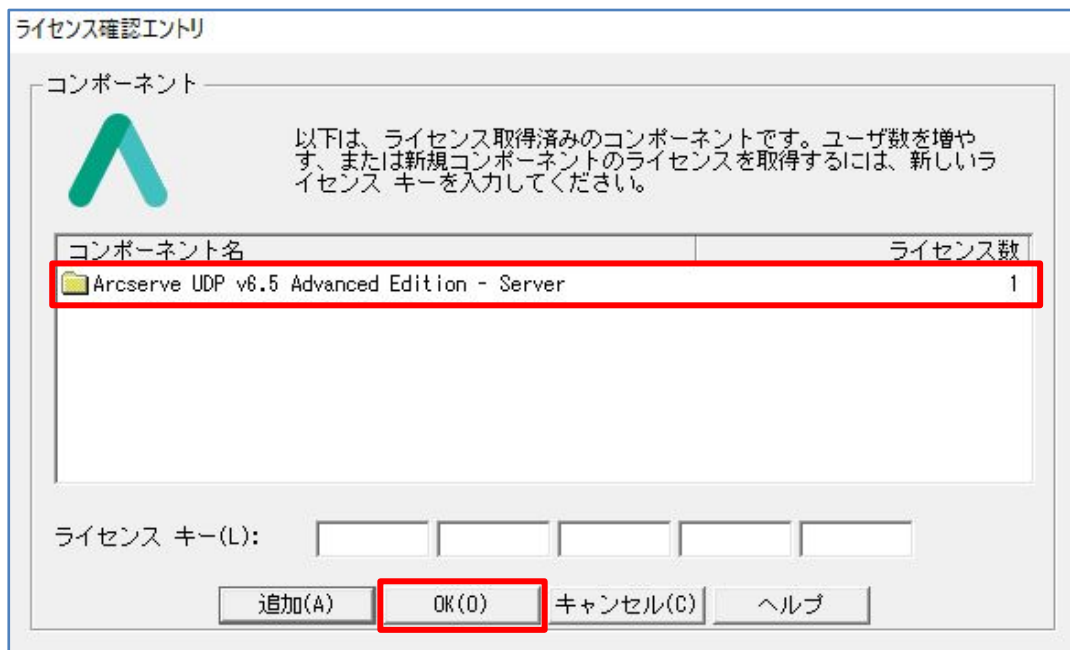
入力完了後、[追加] をクリックします。



(3) [ライセンスの確認]

登録した[コンポーネント名]（製品名）を確認し、[OK]をクリックし画面を閉じます。

以上でインストール、およびライセンスの登録は完了です。



1.3 修正ファイルの適用

修正ファイルの入手と適用には以下の二つの方法があります。

- UDP Agent の更新機能を使用
 - UDP Agent のインストールされているマシンで Web へのアクセスが可能な場合、修正ファイルを Arcserve サポート サイトからスケジュールでダウンロードするか、[ヘルプ] メニューから[更新の確認]で手動にてダウンロード。
ダウンロードした修正ファイルは任意の時間に、手動で適用する事が可能
- Arcserve サポート サイトを利用
 - Arcserve サポート サイトから修正ファイルを手動でダウンロードし、適用。修正ファイルは以下の URL からダウンロード可能
<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3ppWAC/arcserve-udp-patch-index?language=ja>

2. バックアップ運用の開始

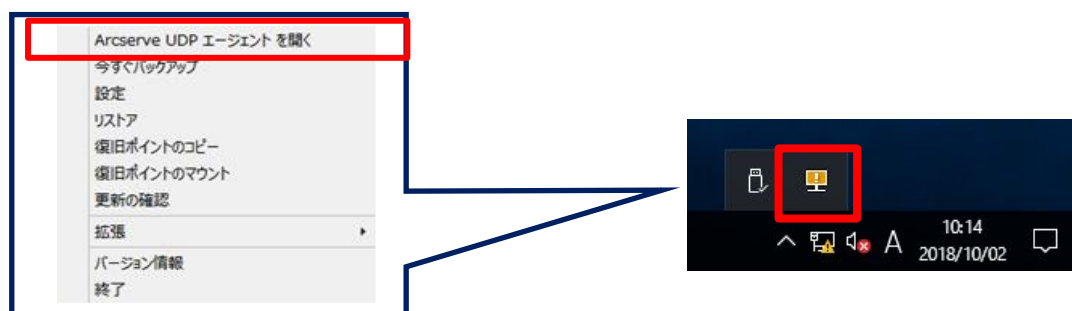
ここではデフォルト設定による最も簡単な運用開始手順を説明します。

以下の説明に従って、初めてバックアップ設定を保存した場合、毎日 22:00 にバックアップが自動的にスケジュールされます。運用要件に応じバックアップ設定を変更するには、本章「3.1 バックアップ スケジュールの設定例」を参照してください。

2.1 バックアップ設定

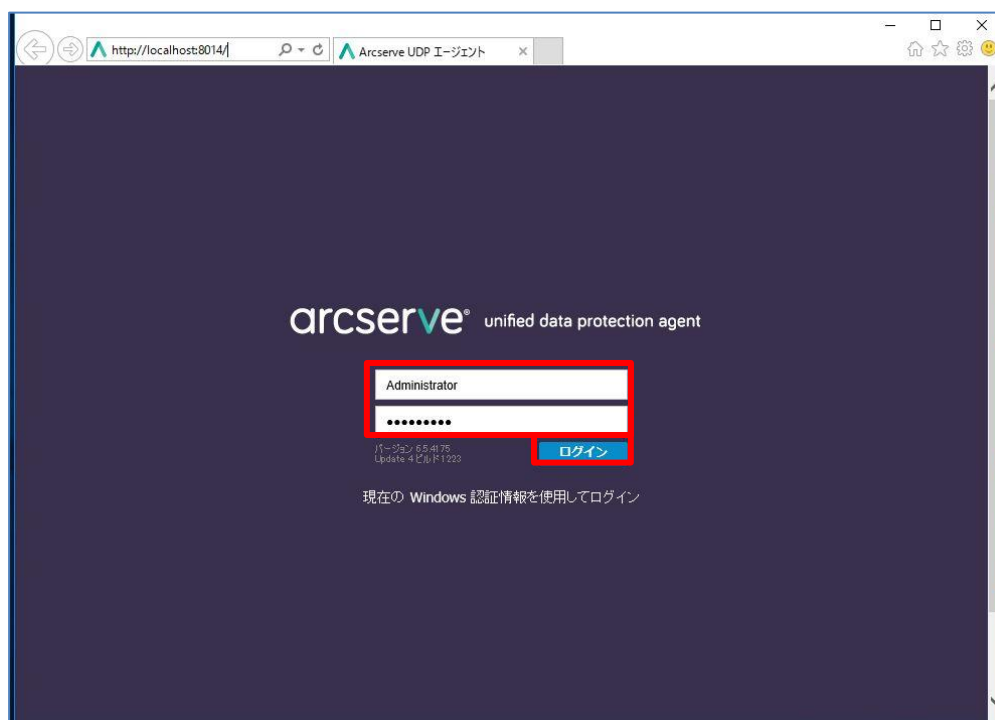
(1) [設定]

タスクトレイ上の UDP アイコンをクリックし、メニューから [Arcserve UDP を開く] をクリックします。



(2) [ログイン]

既定のブラウザが起動し、UDP ホームページのログイン画面が表示されます。インストール時に指定したアカウントでログインします。ここでは、このまま「Administrator」アカウントでログインします。[パスワード] 入力し、[ログイン] をクリックします。



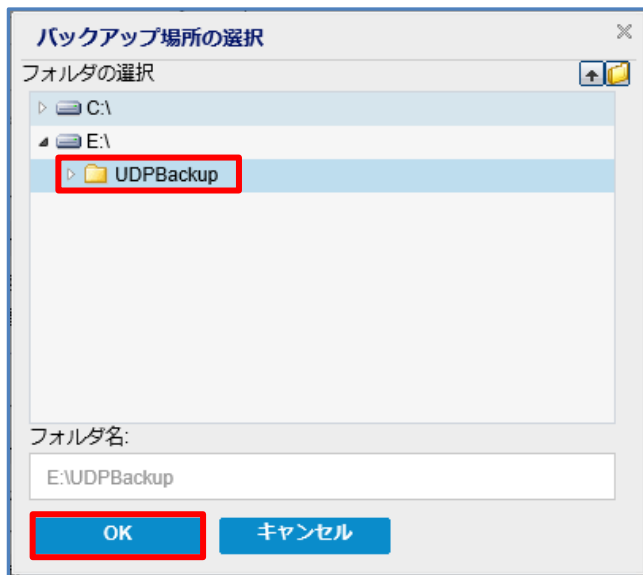
* 「現在の Windows 認証情報を使用してログイン」をクリックすると、ログイン操作を行わずに UDP ホームページを表示できます。

(3) [設定] - [バックアップ設定]

[設定] 画面の [保護設定] タブをクリックします。UDP では必ず [バックアップ先] を指定する必要があります。「バックアップ先」の [参照] ボタンをクリックして指定します。



バックアップ場所の選択を行い、[OK] をクリックします。この例では、「E:¥UDPBackup」というローカル ディスク上のフォルダをバックアップ先として指定しています。



- * UDP ではローカル ディスク内のフォルダをバックアップ先として指定した場合、バックアップ先フォルダを含むディスク全体がバックアップ対象から除外されます。
ローカル ディスク内にバックアップ先を確保できない場合には、以下の「バックアップ先として共有フォルダを設定する方法」を参照し、共有フォルダをバックアップ先として設定します。

[バックアップ先として共有フォルダを指定する方法]

(ア) 共有フォルダを指定する際には、バックアップ先として¥¥で始まる UNC パスを直接入力します。

ここでは[¥¥192.168.100.10¥Backup] という共有フォルダをバックアップ先として指定します。

バックアップ先
ファイルのバックアップ先を選択してください。

¥¥192.168.100.10¥Backup

バックアップ先が変更されたので、次のバックアップの種類を選択してください。

☒ フルバックアップ ☐ 増分バックアップ

(イ) UNC パスの入力後、テキストボックス横の  アイコンをクリックすると共有フォルダに接続するためのアカウント情報の入力画面が表示されます。接続に使用する [ユーザ名] と [パスワード] を入力し、[OK] をクリックします。

接続

¥¥192.168.100.10 への接続

ユーザ名 administrator

パスワード

ユーザ名の形式: ユーザ名、マシン名¥ユーザ名、またはドメイン名¥ユーザ名

OK キャンセル

(4) [設定] - [設定の保存]

[設定の保存] をクリックし設定を保存します。保存が完了すると、自動的にバックアップジョブがスケジュールされバックアップ運用が開始されます。

設定

バックアップ設定

保護設定

バックアップ先
ファイルのバックアップ先を選択してください。

E:\UDPBBackup

バックアップ先が変更されたので、次のバックアップの種類を選択してください。

☒ フルバックアップ ☐ 増分バックアップ

バックアップソース

☒ すべてのボリュームのバックアップ
☐ 選択したボリュームのバックアップ

通知 (1 個の警告)

ローカルのバックアップ先ボリューム E:\ は、バックアップソースの選択から除外されます。

バックアップデータ形式

☐ 標準 ☒ 拡張

圧縮

圧縮を使用すると、バックアップ先に必要なディスク容量が減少します。

設定の保存 キャンセル ヘルプ

(5) [スケジュール確認]

バックアップ スケジュールが登録され運用が開始されます。バックアップ中のステータスや次回のスケジュールは UDP ホーム ページ内の [ジョブ モニタ] から確認することができます。



- * デフォルトの設定は、毎日 22:00 です。すぐにバックアップを開始する場合は、[今すぐバックアップ]をクリックしバックアップを実施します。

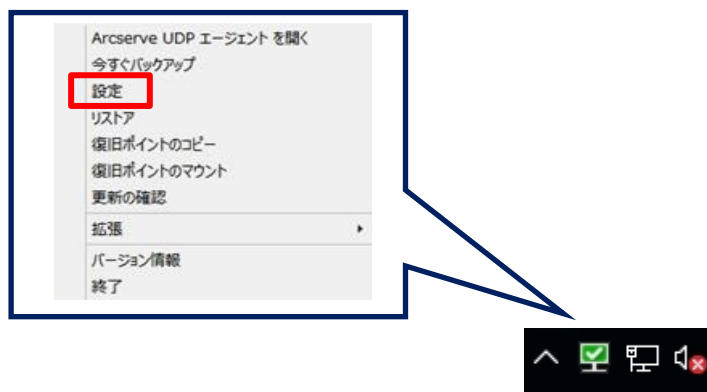
3. バックアップ スケジュールの設定

3.1 バックアップ スケジュールの設定例

ここでは、月曜日から金曜日の 23 時に増分バックアップを行い、土曜日および日曜日にはバックアップを実施しない例を紹介します。

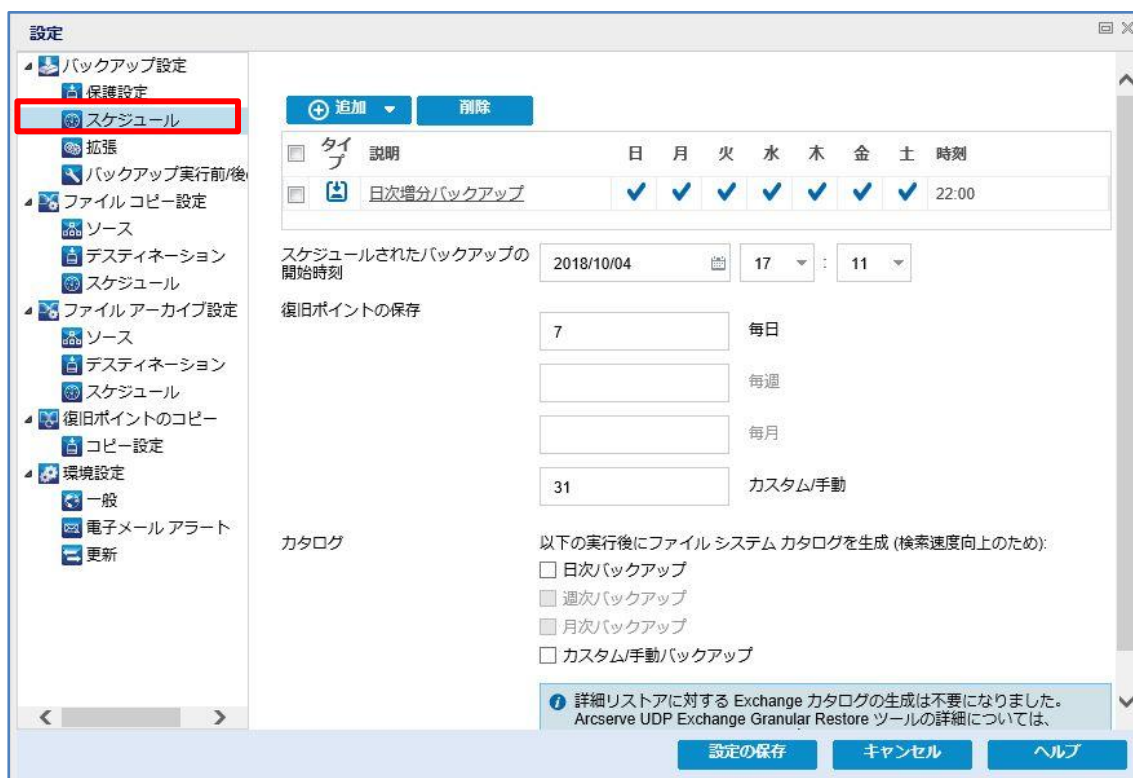
(1) [設定] 画面の起動

タスクトレイ上の UDP アイコンをクリックし、[設定] をクリックします。



(2) [設定]

バックアップ スケジュールの設定は、[設定] - [スケジュール] メニューでスケジュールを変更します。



(3) [日次増分バックアップ] の変更

[日次増分バックアップ] をクリックし、以下のように設定します。

開始時刻 : 23 時

曜日 : ☒月曜日 ☒火曜日 ☒水曜日 ☒木曜日 ☒金曜日

保持するバックアップ数 : 5

バックアップ スケジュールの編集

毎日

バックアップの種類: 増分

開始時刻: 22:00

☒日曜日 ☒月曜日 ☒火曜日
☒水曜日 ☒木曜日 ☒金曜日
☒土曜日

保持するバックアップ数: 7

ヘルプ 保存 キャンセル

バックアップ スケジュールの編集

毎日

バックアップの種類: 増分

開始時刻: 23:00

☐日曜日 ☒月曜日 ☒火曜日
☒水曜日 ☒木曜日 ☒金曜日
☐土曜日

保持するバックアップ数: 5

ヘルプ 保存 キャンセル

(4) [設定の保存]

月曜日から金曜日の 23 時にバックアップを実行する設定が完了しました。[設定の保存] をクリックします。

* カスタム バックアップで保持する復旧ポイント数は、デフォルトでは「31」です。

設定

バックアップ設定

保護設定

スケジュール

拡張

バックアップ実行前/後

ファイル コピー設定

ソース

デスティネーション

スケジュール

ファイル アーカイブ設定

ソース

デスティネーション

スケジュール

復旧ポイントのコピー

コピー設定

環境設定

一般

電子メール アラート

更新

追加 削除

タイプ	説明	日	月	火	水	木	金	土	時刻
☒	日次増分バックアップ	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	23:00

通知

手動 (アドホック) バックアップについては、カスタム/手動バックアップ スケジュール用に設定された保存設定はまだ適用されます。

スケジュールされたバックアップの開始時刻: 2018/10/04 17:11

復旧ポイントの保存: 7 毎日

31 カスタム/手動

カタログ

以下の実行後にファイル システム カタログを生成 (検索速度向上のため):
☒ 日次バックアップ

設定の保存 キャンセル ヘルプ

4. ベアメタル復旧

ベアメタル復旧（BMR）とはまったく新しいハード ディスクシステムを復旧し、サーバを元通りに回復する復旧手段の事を意味しており、UDP では OS やアプリケーションをインストールせずに、バックアップ取得時とまったく同じ状態にシステム全体を回復させることができます。UDP はベアメタル復旧を標準機能として提供しています。

本ガイドでは、復旧メディアの作成方法やもっとも簡単な [高速モード] を使って、共有フォルダまたは復旧ポイント サーバのデータストアに保存されているバックアップ イメージからベアメタル復旧を行う手順を説明します。（サーバ内のローカル ディスクにバックアップされている場合でもご利用いただけます）

UDP はベアメタル復旧を行う際に WinPE ベースの復旧メディア (ISO イメージまたは USB メモリ)を使用します。

この復旧メディアには、ベア メタル復旧の実行に必要な情報がすべて含まれており、「ブートキットの作成」ウィザードを使用して作成できます。

本資料では、Windows 8/8.1 ベースの復旧メディア (ISO イメージ) を作成する方法について説明します。

※ Windows 8/8.1 ベースの復旧メディアは、Windows Server 2012/2012 R2、Windows Server 2008/2008 R2 の復旧メディアとしても利用することができます。

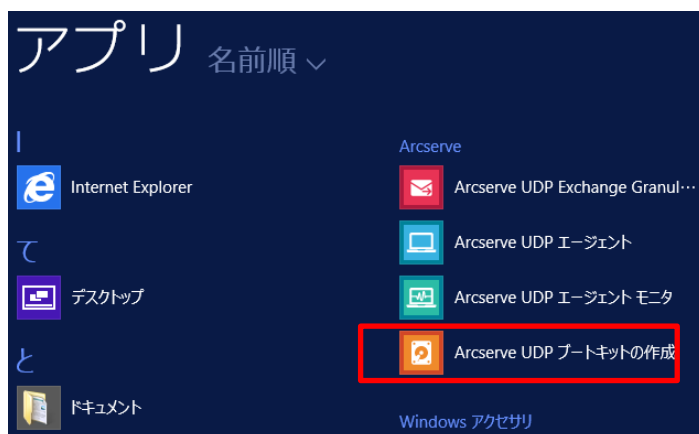
ブートキットの作成ウィザードでは、必要なドライバを組み込んだメディアやドライバを組み込まない汎用的なメディアを作成することが可能です。ドライバを組み込まない復旧メディアを利用した BMR 復旧でも、必要に応じて復旧中にドライバを組み込むことができます。復旧メディアを作成するには Windows ADK (Windows アセスメント & デプロイメント キット) または Windows AIK (Windows 自動インストール キット) をインストールする必要があります。インストールが必要なキットは復旧対象サーバの OS バージョンによって異なります。必要なキットの種類については「4.1 復旧メディアの作成」を参照ください。

4.1 復旧メディアの作成

本ガイドでは、ブートキットの作成ウィザード実行時に、Windows ADK をダウンロードしながら、復旧メディアを作成する一連の操作を記載します。(UDP Agent がインターネットに接続できない環境の場合は、別のマシンを使って Windows ADK または Windows AIK を事前にダウンロードしインストールする必要があります。)

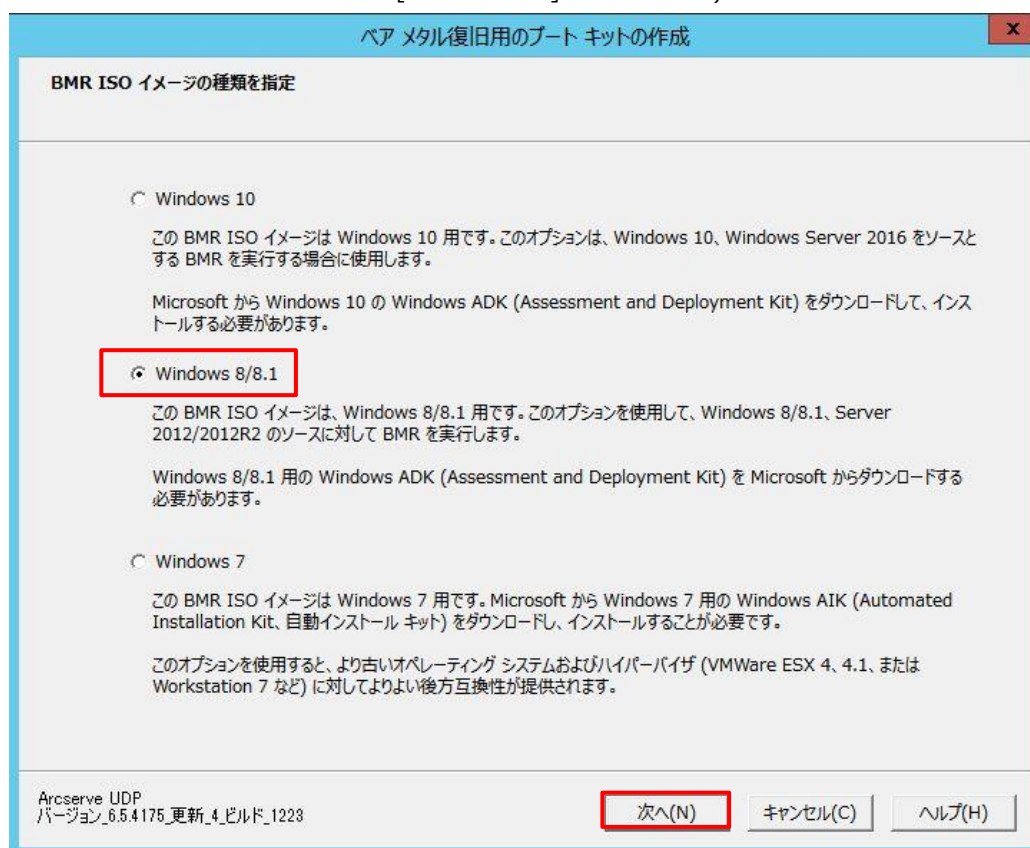
(1) [ブートキットの作成] ウィザードの起動

Windows スタートアップ メニューから、[Arcserve UDP ブートキットの作成] を選択してください。



[BMR ISO イメージの種類を指定]

復旧対象サーバの OS バージョンに応じて、[Windows 10]、[Windows 8/8.1] または [Windows 7] を選択し、[次へ] をクリックします。(本ガイドでは、[Windows 8/8.1] を選択しています。復旧対象が Windows Server 2016 の場合は、[Windows 10] を選択します)



(2) [Windows ADK または AIK 情報]

「ブートキット ウィザード」は、起動時にコンピュータをチェックし、Windows ADK (Windows アセスメント & デプロイメント キット) または Windows AIK (Windows 自動インストール キット)がインストールされていない場合は、[Windows ADK または AIK 情報] 画面を表示します。

※Windows ADK または Windows AIK がインストール済みの環境は (4) へ進んでください。

※復旧対象のサーバが Windows Server 2016 の場合は、Windows 10 用の Windows ADK が必要です。

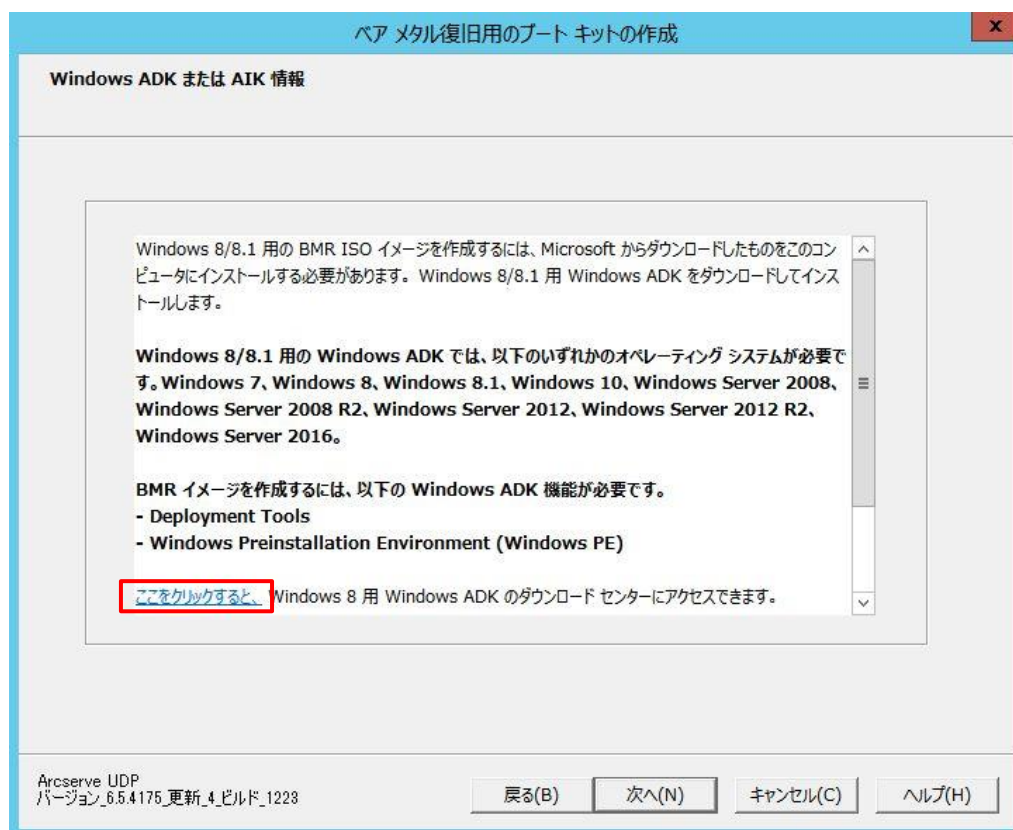
※復旧対象のサーバが Windows Server 2003 の場合は、Windows 自動インストール キット (AIK) が必要です。

Windows AIK は以下の Microsoft 社の Web からダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5753>

本ガイドでは Windows ADK の場合を説明します。

画面下部の「ここをクリックすると、Windows 8.1 用 Windows ADK のダウンロード センターにアクセスできます。」の[ここをクリックすると、]をクリックします。



(3) Windows ADK のダウンロード

Microsoft 社の Web ページ「Windows 8.1 Update 用 Windows アセスメント & デプロイメント」(<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=39982>) ダウンロードページを開き Windows ADK をダウンロードします。

<Windows ADK のインストール>

① Windows ADK プログラムの実行

ダウンロードした Windows ADK フォルダ内の「adksetup.exe」をクリックし、実行します。

Windows Server 2008 R2 以前の OS では、「Assessment and Deployment Kit for Windows 8.1 セットアップ」が起動し、Assessment and Deployment Kit セットアップに必要な Microsoft .NET Framework が表示されますので内容を確認し、同意できる場合は、[Microsoft .NET Framework のライセンス条項に同意します] をチェックし、[同意してインストールする] をクリックします。

(Windows Server 2012 以降では Microsoft .NET Framework 4.5 がデフォルトでインストールされているため、表示されません。③に進みます)

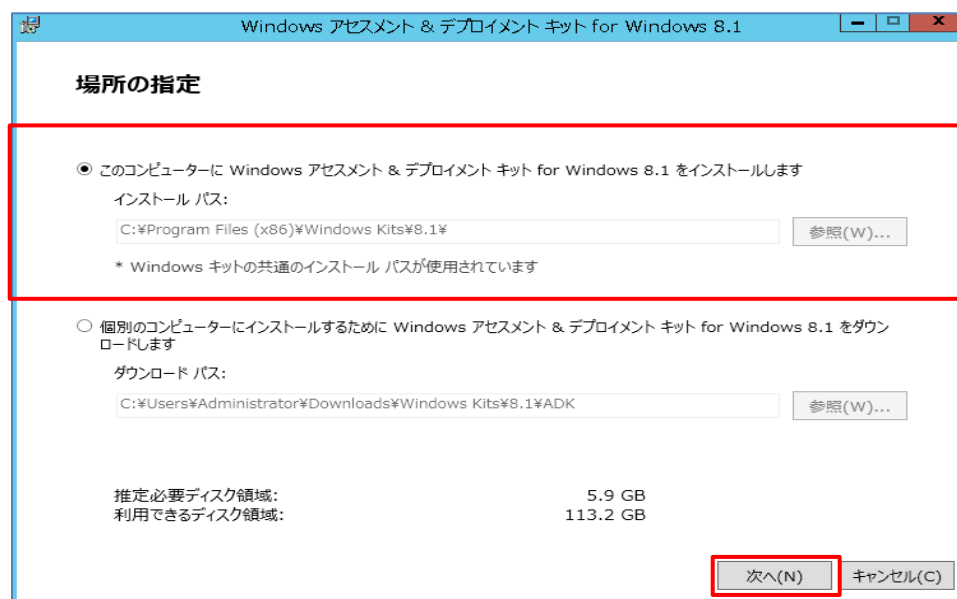


② [システムの再起動]

環境によって Microsoft .NET Framework のインストールが完了した後、システムの再起動が必要になる場合があります。[OK] をクリックし、システムを再起動します。

③ [場所の指定]

Windows ADK のインストール先フォルダを指定します。



* Windows ADK をダウンロードし、別のマシンに適用する場合は「個別のコンピュータにインストールするためにアセスメント & デプロイメント キット for Windows 8.1 をダウンロードします」を選択し、保存先を指定します。復旧メディアを作成する UDP Agent サーバが、インターネットに接続できない環境では、ダウンロード済みの Windows ADK を利用する必要があります。

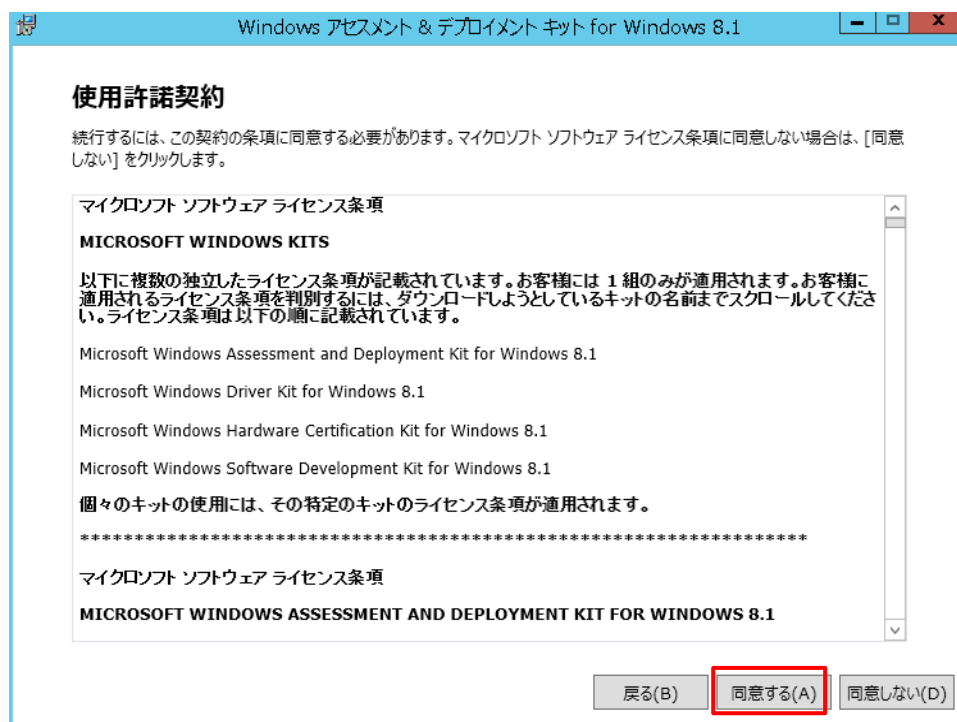
④ [アセスメント & デプロイメント キット]-[カスタマー エクスペリエンス向上プログラムへの参加]

必要に応じて、[はい] または [いいえ] を選択し、[次へ] をクリックします。



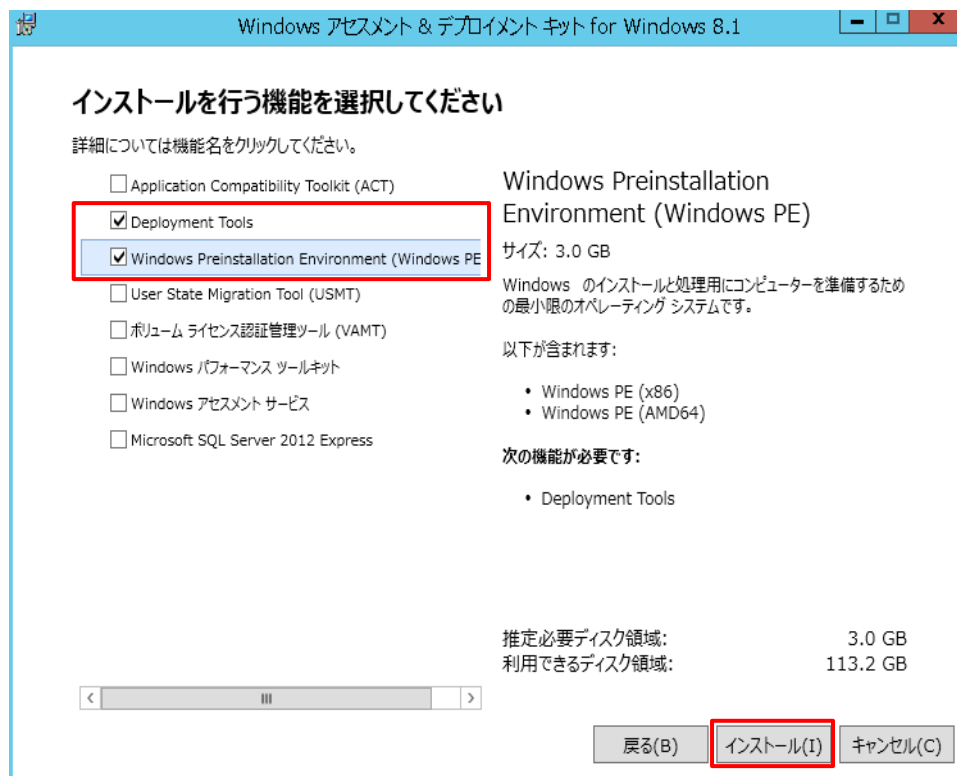
⑤ [使用許諾契約]

内容に同意できる場合は、[同意する] をクリックします。



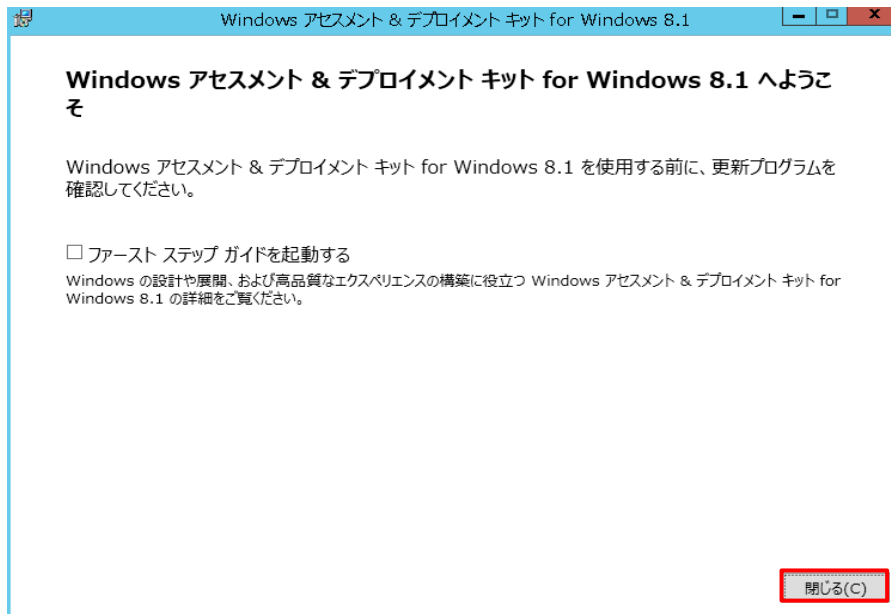
⑥ [インストールを行う機能を選択してください]

[Deployment Tools] と [Windows Preinstallation Environment (Windows PE)] を選択し、[インストール] をクリックします。BMR イメージ作成に必要なものは 2 点のみです。



⑦ [アセスメント & デプロイメント キット for Windows 8.1 へようこそ]

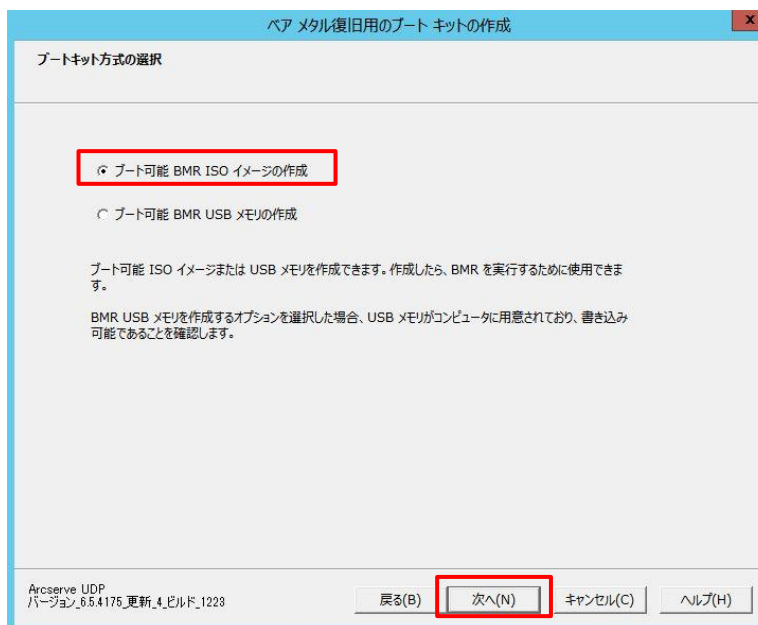
表示を確認し、[閉じる] をクリックします。



以上で、ADK のインストールは完了です。

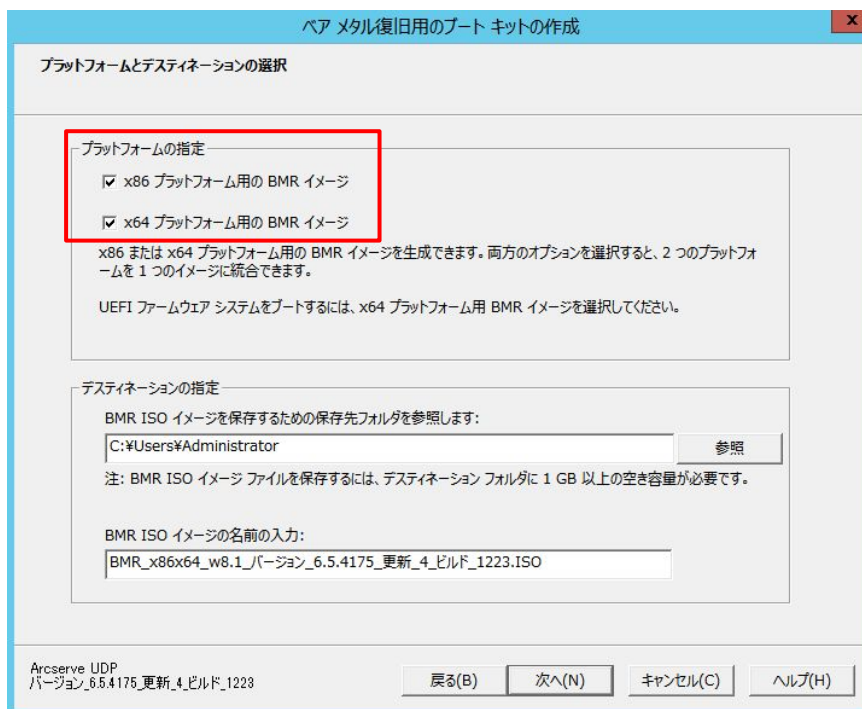
(4) [ブートキット方式の選択]

[ブート可能 BMR ISO イメージの作成] または [ブート可能 BMR USB メモリ] を選択し、[次へ] をクリックします。(本書では、[ブート可能 BMR ISO イメージの作成] を選択しています。)



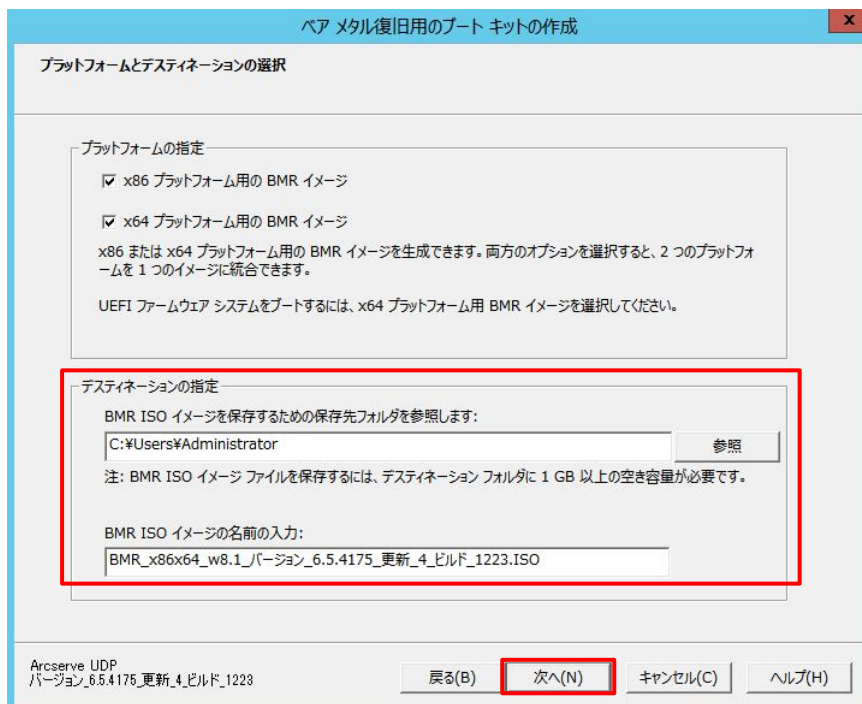
(5) [プラットフォームとデスティネーションの選択]

[プラットフォームの指定] で復旧用メディアに含める BMR イメージのプラットフォームを選択します。本ガイドでは、両方のプラットフォームで使用できるよう [x86 プラットフォーム用の BMR イメージ] および [x64 プラットフォーム用の BMR イメージ] を選択しています。



(6) [プラットフォームとデスティネーションの選択]

[デスティネーションの指定] で、[BMR ISO イメージを保存するための保存先フォルダを参照します] および [BMR ISO イメージの名前の入力] でそれぞれを指定し、[次へ] をクリックします。



(7) [言語の選択]

デフォルトでは、「日本語」が選択されていますので、そのまま「次へ」をクリックします。

×

ベア メタル復旧用のブート キットの作成

言語の選択

以下の言語をこの BMR イメージに統合できます。統合した場合、BMR プロセスで GUI およびキーボードに対して 1 つ以上の言語を選択できます。

注: 各言語の統合には時間がかかります。このプロセスにかかる時間を最小限に抑えるには、必要とする言語のみを選択してください。

言語を選択してください:

☐ 英語

☐ 韓国語

☐ 中国語 (簡体字)

☐ 中国語 (繁体字)

☐ フランス語

☐ ドイツ語

☐ イタリア語

☒ 日本語

☐ ポルトガル語 (ブラジル)

☐ スペイン語

☐ すべて選択

Arcserve UDP
バージョン: 6.5.4175_更新_4_ビルド_1228

戻る(B)

次へ(N)

キャンセル(C)

ヘルプ(H)

(8) [ドライバの指定]

[作成] をクリックします。

* ドライバを組み込んだ BMR ISO イメージを作成する場合は、[ローカル ドライバを含む] または [ドライバの追加] を選択し、ドライバを導入します。

[illegible]

(9) [ブート可能 BMR ISO イメージまたは BMR USB メモリの作成]

BMR ISO イメージの作成が開始され、完了すると以下の画面が表示されます。[完了]をクリックします。



(10) BMR ISO イメージから復旧用 CD の作成

作成した BMR ISO イメージからライティング ソフトウェアなどを使って、復旧用 CD を作成します。
作成した復旧用 CD からマシンを起動し、ベアメタル復旧を行うことができます。



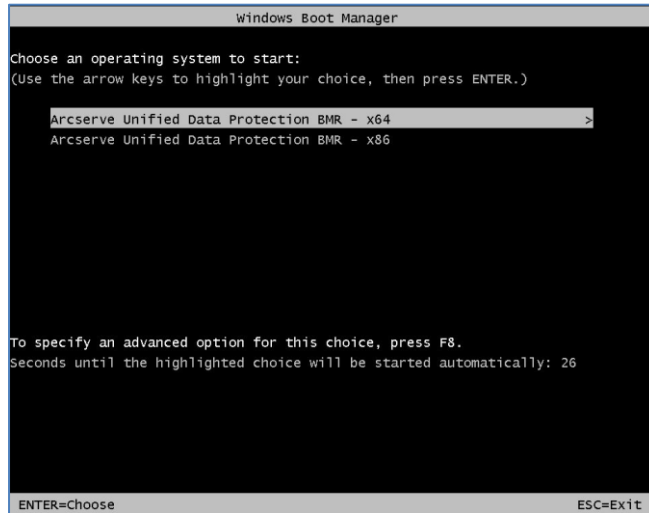
* 作成した復旧メディアは、UDP のビルド番号を入れた名前をつけて、大切に保管してください。

4.2 ベアメタル復旧の実行

UDP のブートキット作成ウィザードを使って作成した復旧メディアを復旧対象のサーバにセットし、起動すると Windows Boot Manager が立ち上がります。

(1) [Windows Boot Manager]

復旧対象サーバのアーキテクチャー(x86/x64)を選択し、Enter キーを押すと、BMR(ベアメタル復旧)ウィザードが起動します。デフォルトでは 30 秒で x64 が自動選択されます。



* P23 (6)の手順で 1 つだけ選択した場合は表記されません。

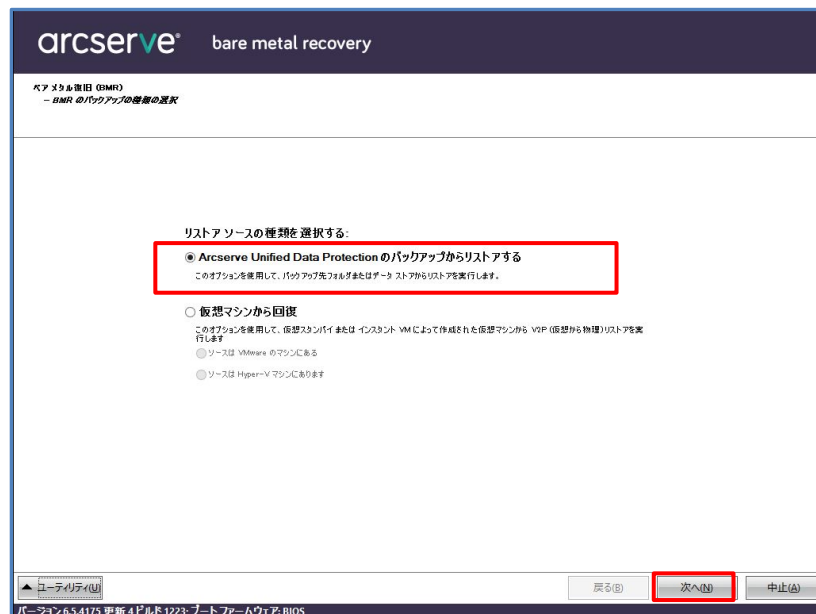
(2) [キーボード レイアウト] の選択

[日本語] を選択し、[次へ] をクリックします。



(3) [ベア メタル復旧 (BMR) – BMR のバックアップの種類を選択]

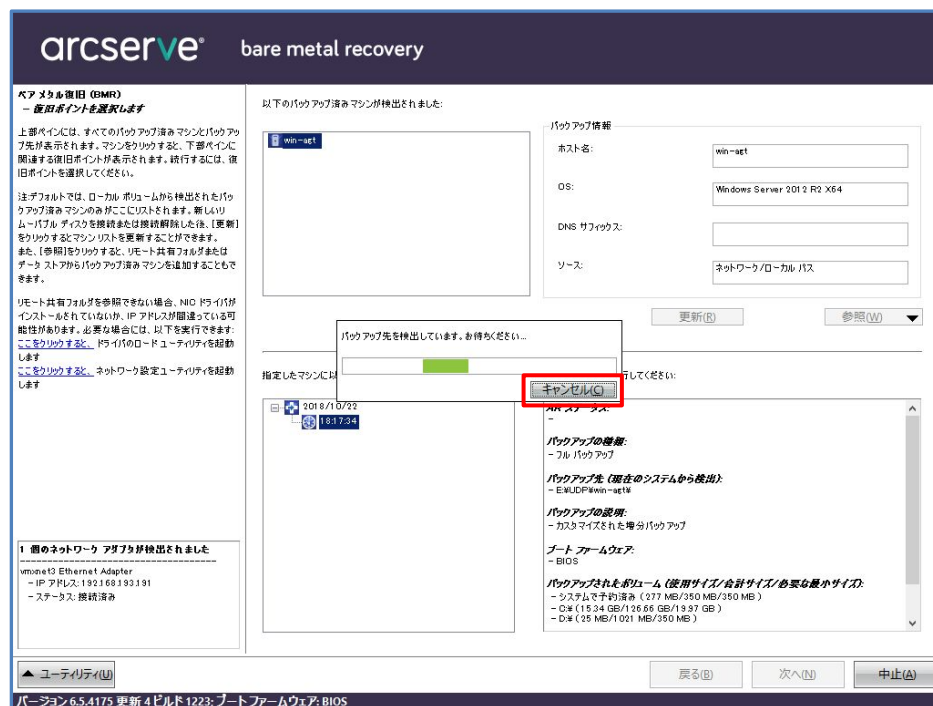
[Arcserve Unified Data Protection のバックアップからリストアします] が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



ローカル ディスクにバックアップが保存されている環境では、UDP は自動的にバックアップ先を検出するため、以降の (4) から (7) の操作は不要です。適切なバックアップデータを選択の上、(8) に進みます。DHCP で IP アドレスを取得している環境では以降の (5) から (6) の操作は不要です。(7) に進みます。

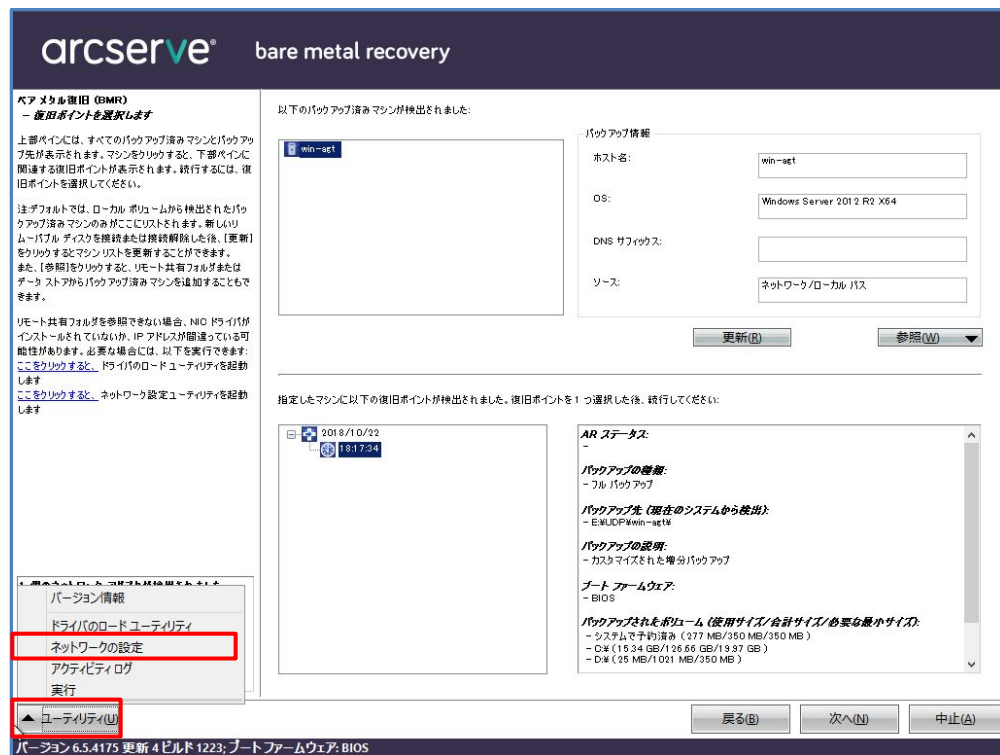
(4) [ベア メタル復旧 (BMR) – バックアップの先の検出]

共有フォルダまたは復旧ポイント サーバのバックアップ先を参照するため、先にネットワークの設定を行います。ここでは バックアップ先の検出は [キャンセル] をクリックして中止します。



(5) [ベア メタル復旧 (BMR) – ネットワーク設定]

[ユーティリティ]メニューから、[ネットワークの設定]をクリックします。



(6) [ネットワークの設定]

ネットワークの設定を行い、[OK]をクリックします。必要に応じて、デフォルトゲートウェイや DNS サーバの設定を行って下さい。必要に応じて、デフォルト ゲートウェイや DNS サーバの設定を行ってください。

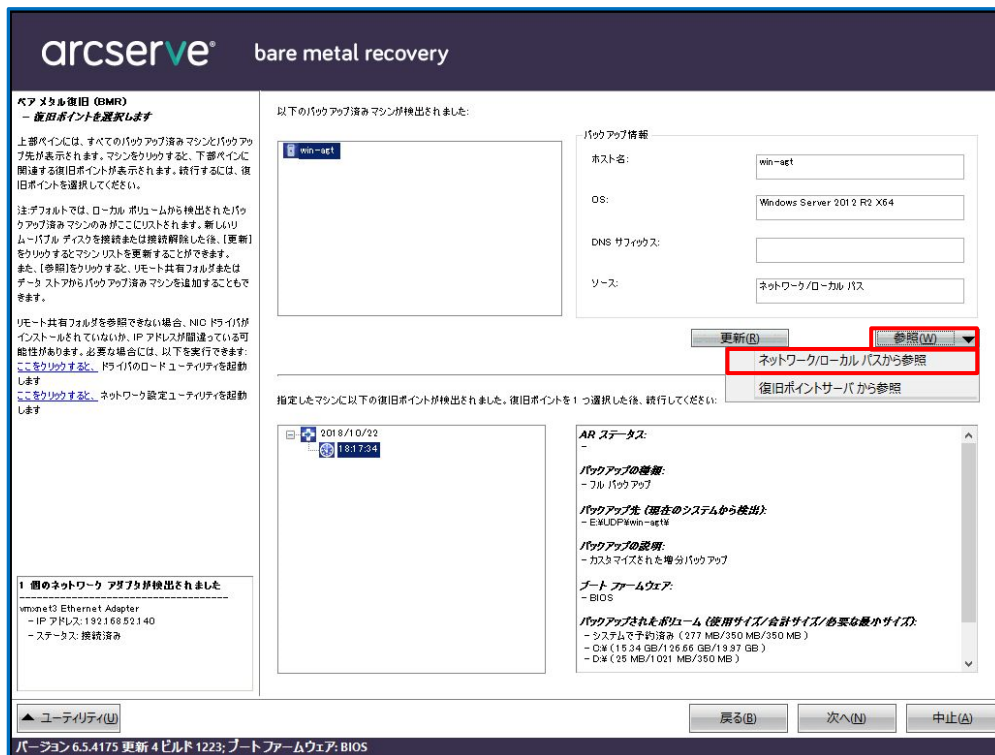


(7) [ベア メタル復旧 (BMR) - 復旧ポイントを選択します]

- ・ バックアップ イメージが共有フォルダに保存されている場合には **手順 A** へ進みます。
- ・ バックアップ イメージが復旧ポイントサーバに保存されている場合には **手順 B** へ進みます。

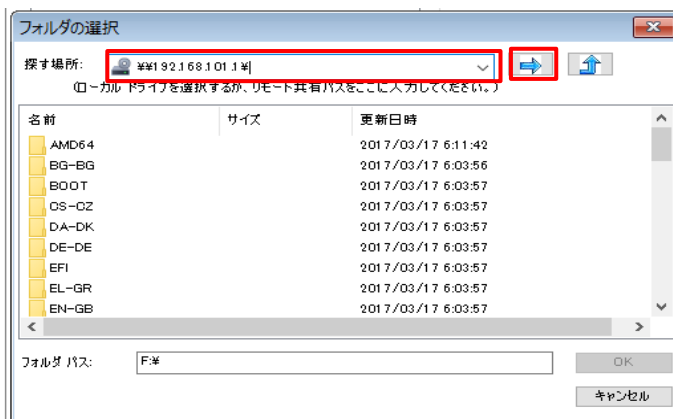
手順 A: 共有フォルダからバックアップ イメージを参照する

①左下の画面で正しくネットワークが設定されていることを確認し、[参照] - [ネットワーク/ローカル パスから参照] をクリックします。



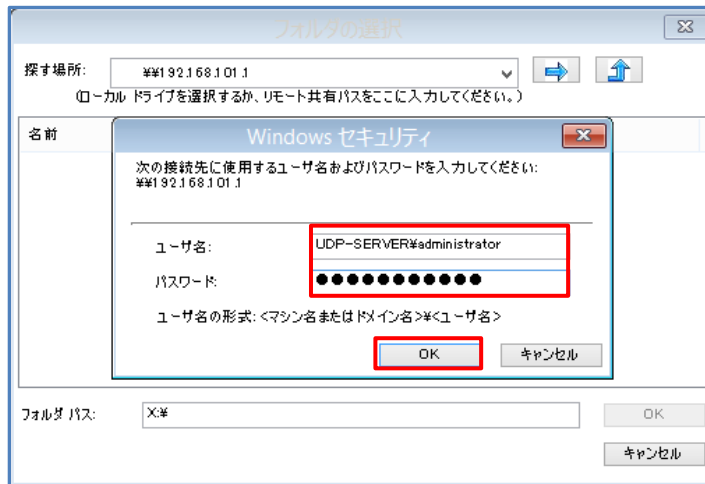
②[フォルダの選択]

バックアップ先の共有フォルダを ¥¥ で始まる UNC パスで直接 [探す場所] に入力し、 アイコンをクリックします。



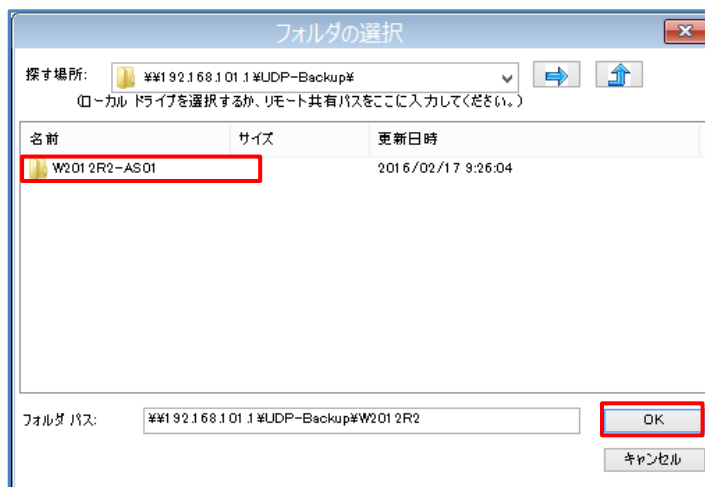
③[Windows セキュリティ]

アカウント情報を入力します。アカウント情報は、「マシン名またはドメイン名¥ユーザ名」を指定します。
入力が完了したら[OK]をクリックします。



④[フォルダの選択]

復旧対象のサーバ名のフォルダを選択し、[OK]をクリックします。バックアップ先フォルダ内の復旧するサーバ名のフォルダを指定します。



②[エージェントの選択]

復旧ポイントサーバのコンピュータ名およびアカウント情報を入力します。復旧ポイントサーバのコンピュータ名を[ホスト名]に、管理者権限を持つユーザのアカウント名とパスワードを[ユーザ名]と[パスワード]にそれぞれ入力します。入力が完了したら[接続]をクリックし、復旧ポイントサーバに接続します。

ノードの選択

復旧ポイントサーバ 認証情報を入力し、[接続] ボタンをクリックしてサーバに接続し、データストアおよびノードリストを取得します。

ホスト名: udp-server ポート: 8014

ユーザ名: administrator プロトコル: ☒ HTTP ☐ HTTPS

パスワード: ●●●●●●●●●●

接続(N)

このサーバで保護されているデータストアおよびノード:

OK(O) キャンセル(C)

③[エージェントの選択]

表示されたデータストア内のバックアップデータを選択します。エージェント経由でバックアップした場合、コンピュータ名がエージェントとして表示されていますので、適切な対象を選び、[OK]をクリックします。

ノードの選択

復旧ポイントサーバ 認証情報を入力し、[接続] ボタンをクリックしてサーバに接続し、データストアおよびノードリストを取得します。

ホスト名: udp-server ポート: 8014

ユーザ名: administrator プロトコル: ☒ HTTP ☐ HTTPS

パスワード: ●●●●●●●●●●

接続(N)

このサーバで保護されているデータストアおよびノード:

datastore1

ARCSERVE01

OK(O) キャンセル(C)

④[ベア メタル復旧 (BMR) - 復旧ポイントを選択します]

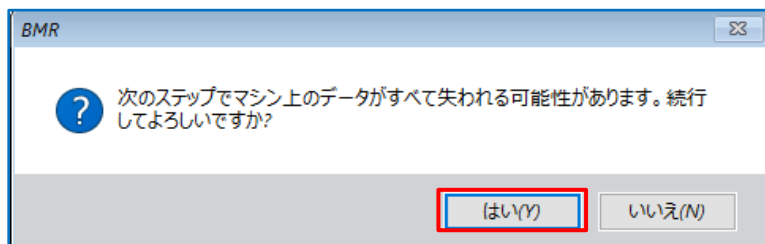
最新のバックアップを取得した日時が選択されます。[次へ] をクリックします。

* プラン作成時のバックアップ タスクでパスワードを設定している場合、セッション パスワードを入力する必要があります。

(8) [ベア メタル復旧 (BMR) - 復旧モードの選択]

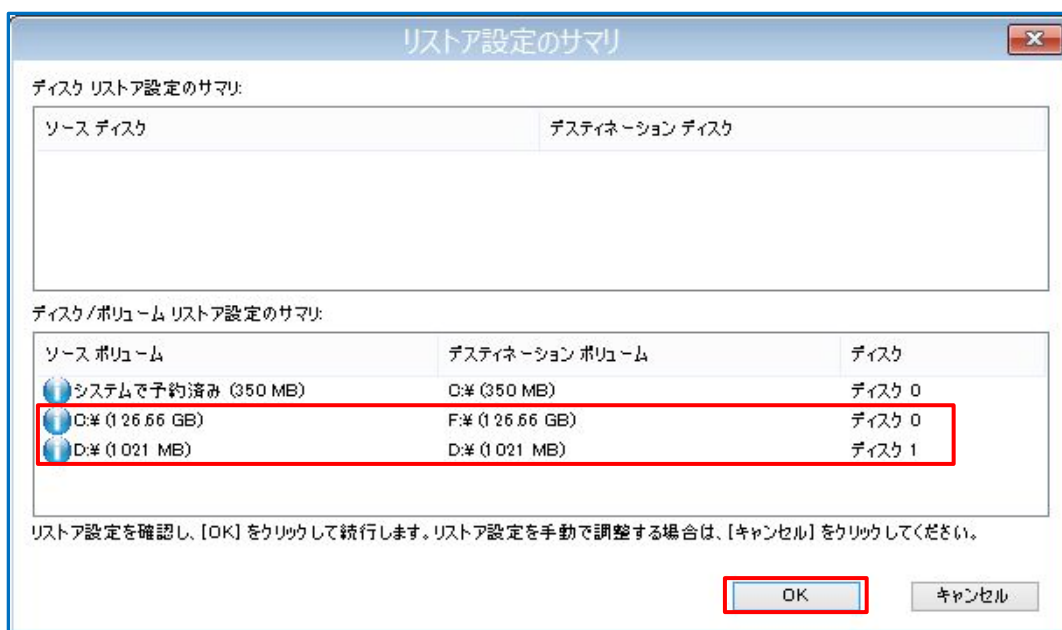
[高速モード]を確認し、[次へ] をクリックします。拡張モードを利用するとディスクの構成/サイズの変更を行うことができます。

[次へ] 進めると、ディスク情報が削除されます。[はい] をクリックし、BMR を継続します。



(9)[リストア設定のサマリ]

復旧対象のドライブを確認し、[OK]をクリックします。



- * [リストア設定のサマリ] 画面の下部にある「デスティネーション ボリューム」列に表示されるドライブ文字は、Windows プレインストール環境 (WinPE) から自動的に生成されているため、「ソース ボリューム」列に表示されるドライブ文字とは異なる場合があります。ドライブ文字が異なっている場合でも、データは問題なく適切なボリュームにリストアされます。
- * [OK] をクリックするとベアメタル復旧が始まりますので、設定が適切でない場合には [キャンセル] をクリックし、設定をやり直してください。

(10) [ベア メタル復旧 (BMR) – リストア プロセスの開始]

リストアが開始されます。復旧が終わると、システムは自動で再起動されます。

再起動後、サーバにログインしシステムが正常に復旧していることを確認します。

arcserve® bare metal recovery

ベア メタル復旧 (BMR)
– リストア プロセスの開始

このページには、ディスク/ボリュームのリストア設定のサマリが表示されます。

注: BMR プロセスの完了後、サーバが再起動されています。このサーバからバックアップ ジョブを実行することはお勧めしません。BMR 機能をテストしているだけの場合は、[再起動後に エージェント サービスを自動的に開始しない] オプションを選択することをお勧めします。

バックアップ ジョブを実行する場合は、このオプションを選択すると、再起動後に エージェント サービス (およびインストールされている場合は 復旧ポイントサーバ サービス) を手動で開始できます。

Windows F8 ブート オプションを有効にすると、BMR の実行後によりなる復旧またはトラブルシューティングを実行するのに役立ちます。たとえば、F8 キーを押して Active Directory Service Restore モードで起動すると、Active Directory Authoritative Restore を実行できます。

リストア設定のサマリ

リストア項目	ステータス	進捗状況	スループット
ソース ボリューム "システムで予約済み" を現在のデスティネーション ディスク 0 にリストアします	完了	100.0%	675.14 MB/分
ソース ボリューム "D:" を現在のデスティネーション ディスク 0 にリストアします	リストア中	2.1%	782.68 MB/分
ソース ボリューム "D:" を現在のデスティネーション ディスク 1 にリストアします	未開始		

☒ 復旧後、システムを自動的に再起動する(Y)

☒ 再起動後に エージェント サービスを自動的に開始しない(N)

☐ Windows 8/Windows Server 2012 およびそれ以降の OS で、次回起動時に [詳細ブート オプション](F8) メニューにシステムをブート(B)

経過時間: 00:00:46

推定残り時間: 00:19:36

[2.1%] [288MB/13760MB] ソース パーティション ボリューム "D:" を現在のデスティネーション ディスク 0 にリストアしています

 ブート ボリュームが現在のデスティネーション ディスク 0 にリストアされました。このディスクからシステムを起動してください。

▲ ユーティリティ(U) 戻る(B) 次へ(N) 中止(A)

バージョン 6.5.4175 更新 4 ビルド 1223; ブートファームウェア: BIOS

arcserve® bare metal recovery

ベア メタル復旧 (BMR)
– 再起動の準備

このシステムを自動的に再起動するには、[再起動] をクリックします。BMR ログ ファイルをすべて収集する場合、アクティビティ ログ ユーティリティを使用できます。
ここをクリックすると、アクティビティ ログ ユーティリティが起動します。

システムが再起動するまで、あと **26 秒**。

 ブート ボリュームが現在のデスティネーション ディスク 0 にリストアされました。このディスクからシステムを起動してください。

▲ ユーティリティ(U) 戻る(B) 次へ(N) 中止(A)

バージョン 6.5.4175 更新 4 ビルド 1223; ブートファームウェア: BIOS

5. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカatalogや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

5.1 製品情報および FAQ はこちら

Arcserve シリーズ ポータルサイト

<https://www.arcserve.com/jp/>

動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/212366726?language=ja>

注意/制限事項

<https://support.arcserve.com/s/article/115000773286?language=ja>

その他、技術情報など（エラー、情報、パッチダウンロード）

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3pdWAC/arcserve-udp?language=ja>

マニュアル選択メニュー:

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3poWAC/arcserve-udp-documentation?language=ja>

5.2 トレーニング情報

無償トレーニング

半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。どなた様でも参加いただけますので、この機会にご活用ください。

(競業他社の方はお断りしております。)

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/seminar/>